

[科目名] 経営倫理学	[単位数] 2 単位	[科目区分] 専門科目 基幹科目 選択必修
[担当者] 上田 弘 Ueda Hiromu	[オフィス・アワー] 時間: 木曜と金曜の12時20分～12時50分 場所: 604研究室	[授業の方法] 講義
[科目の概要] 近年、企業の不祥事が絶えない。大手建設業界の談合、BSE(狂牛病)に関する食肉偽装、電力業界の虚偽報告、貿易商社による海外不正取引、大手電機メーカーの粉飾決算報告など 2000 年以降に発生した企業不祥事だけでも枚挙に暇がない。こうした傾向は企業だけではなく、官僚機構、警察・検察機構、自治体等も含め、学校、病院などの様々な組織においても見られ、ガバナンス(統治)上の根詰まりが起きている。 また、日本だけではなく、米国においてもエンロン、ワールドコム不正会計事件、欧州のドイツの大手自動車メーカー・フォルクスワーゲンによる排ガス不正問題の大きさの衝撃は、史上最悪の不祥事に発展している。 これら頻発する不祥事を振り返ると、企業の売上・利益偏重主義や株主価値至上主義等のもたらす負の部分が露呈していることが背景となり、企業や組織の倫理観の欠如から生じるものが多く、企業の存亡に関わるリスクである。 経営倫理の重要性を考えれば、企業等においてもガバナンス機能が発揮されなければならない時代である。その意味からも企業の社会的責任(CSR)並びに企業の経営倫理の重要性を理解するため、実際の企業事例にも触れながら、経営倫理に関する基礎的な知識全般の習得を目指すこととする。		
[「授業科目群」・他の科目との関連付け]・[なぜ、学ぶ必要があるか・学んだことが、何に結びつくか] 企業が CSR に取り組むメリットは、①社会の様々な利害関係者からの長期的な信頼、②リスクを事前に察知して事業のチャンスに結びつける変化への適応力、③将来にわたっての存在を期待される等がある。 本授業を通じ、これからの企業や社会人は、時代の変化に対応して、もっと社会や環境に関心を持ち、法令を超えた自主性が求められていることを認識し、企業活動を通じて倫理という視点から見る目を養い、これからの企業のあり方について理解を深めることを目的とする。		
[科目の到達目標(最終目標・中間目標)] 経営倫理学の授業では、企業運営における企業の社会的責任と役割、コーポレート・ガバナンス、コンプライアンス等の知識に対する興味と理解を深め、実際の企業経営の現場で活用されている知識を付与したい。 本授業を通じて、将来の就職活動、インターンシップの場面のほか、社会人になっても役立つセルフ・ガバナンス力を身に着けるための知識を習得し、その理解を高めることを目標にする。 <u>なお、本授業では、学習効果を高めるため、3回の連続授業を実施する。</u>		
[学生の「授業評価」に基づくコメント・改善・工夫] この科目を担当するにあたって、私がこれまで企業及び役所等において実質経営者、管理者として勤務した経験から得た知見、多くの企業をフィールドワーク及び海外調査で訪ねた企業事例などを通じて、企業現場や経営実務に関する知識と有効な実践的スキルなども付与したい。 本授業では、履修者からの要望、改善・工夫に関する意見やアンケート結果を参考にして、授業へ反映させるよう努力していく。		
[教科書] 田中宏司、松本恒雄 著『CSRの基礎知識』日本規格協会		
[指定図書] 高 巖 著『コンプライアンスの知識』日経文庫 後藤啓二 著『企業コンプライアンス』文春新書 田村達也 著『コーポレート・ガバナンス』中公新書 水尾順一 著『セルフ・ガバナンスの経営倫理』千倉書房 村上芽 著『図解SDGs入門』日本経済新聞社 小平龍四郎著『ESGはやわかり』日経文庫 江夏あかね、西山賢吾著『ESG/SDGs キーワード130』金融財政事情研究会		
[参考書] 國部克彦 著『CSRの基礎』中央経済社 高 巖 著『ビジネスエシックス(企業倫理)』日本経済新聞出版社 日経 ESG編『実践企業のSDGs』日経 BP 社		
[前提科目] なし		

〔学修の課題、評価の方法〕(テスト、レポート等) ◎評価の方法 1. 秋学期開始後、11月の中間時に「課題レポートの提出」を課し、提出されたレポートは最大 50 点評価とする。 2. 学期末に「定期試験」を行い、最大 50 点評価とします(試験では教科書、レジメ、講義ノートは持ち込み可。) 上記 2 つの要素で最終評価に反映させる。	
〔評価の基準及びスケール〕 ◎評価の基準 授業で得た知識を基に、現代の企業で実際に行われているマネジメント(経営管理)内容の理解力で評価する。 A:80 点以上 B:80 点未満 70 点以上 C:70 点未満 60 点以上 D:60 点未満 50 点以上 F:50 点未満	
〔教員としてこの授業に取り組む姿勢と学生への要望〕 ・受講を希望する者は、必ず 1 回目の授業に出席してほしい。 ・授業は、出来るだけ分かりやすい授業を行うが、一方的に話すだけではなく、教科書及びレジメ等の輪読、学生の意見を求めることもある。そのため、受講する学生には、授業への参加意識を持って出席をしてほしい。 ・PCや ipad などのスマホでノートをとる必要及び事例企業などを検索する場合に限り、その使用を認める。	
〔実務経歴〕 経済産業省(旧通産省)、国の独立行政法人、中小企業等での実務経験を活かし、企業の社会的責任並びに経営倫理の重要性を理解するため、実際の企業事例にも触れながら、経営倫理に関する基礎的な知識全般の習得を目指すこととする。	
授業スケジュール	
第 1 回 9/9	テーマ(何を学ぶか): オリエンテーション、ビジネスにおける「企業の社会的責任(CSR)」について 内 容:(1)経営のはたらきとは何か、(2)サステナビリティ(持続可能性)のとは、(3)企業の社会的責任(CSR:Corporate Social Responsibility)の概念、(4)企業の主な組織不祥事、(5)なぜ今、CSR が求められているか 教科書・指定図書とレジメ
第 2 回 9/16	テーマ(何を学ぶか): 企業の社会的責任(CSR)とは何か 内 容:(1)企業が社会的責任に取り組む理由、(2)企業の社会的責任(CSR)の重要性と意義、(消費者の変化、環境問題の深刻化、ネット社会の発展、グローバル経済が与える影響、CSR の国際規格化等) 教科書・指定図書とレジメ
第 3 回 <u>9/23</u>	テーマ(何を学ぶか): 企業不祥事と経営倫理 1 内 容:企業不祥事(スキャンダル)の現状、スキャンダル事例(三菱自動車、パナソニック等)について考える 教科書・指定図書とレジメ
第 4 回 <u>9/24</u>	テーマ(何を学ぶか): 企業不祥事と経営倫理 2 内容:(1)企業不祥事と倫理観の関係性、(2)経営倫理の史的展開 教科書・指定図書とレジメ
第 5 回 9/30	テーマ(何を学ぶか): 世界中で進む CSR の導入 内 容:海外の CSR 最新事情(欧米、アジア、オセアニア等)について 教科書・指定図書とレジメ
第 6 回 <u>10/14</u>	テーマ(何を学ぶか): 動き出した日本の取り組み 内 容:産業界、行政官庁、学術研究界、民間組織 等 教科書・指定図書とレジメ

第7回 <u>10/15</u>	テーマ(何を学ぶか): 日本企業の CSR 導入事例 内 容: 東京商工会議所の CSR 調査、トヨタ自動車、西友、ソニー、資生堂等の導入事例 教科書・指定図書とレジメ
第8回 10/28	テーマ(何を学ぶか): コーポレート・ガバナンス(corporate governance: 企業統治)とは何か 内 容: CSR とコーポレート・ガバナンスとの関係、企業統治の不在、欧米でのコーポレート・ガバナンス革命等 教科書・指定図書とレジメ
第9回 <u>11/11</u>	テーマ(何を学ぶか): 日本的ガバナンスを考える 内 容: 日本経済の成功と日本的経営システム、日本的経営の行き詰まり、日本の新しいコーポレート・ガバナンスの動き 等 教科書・指定図書とレジメ
第10回 <u>11/12</u>	テーマ(何を学ぶか): コンプライアンス(Compliance: 法令遵守)とは何か。 内 容: コンプライアンス(法令遵守)とは何か、法律のコンプライアンスとは、法律以外のコンプライアンス(反社会性の除去)とは 等 教科書・指定図書とレジメ
第11回 11/18	テーマ(何を学ぶか): 公務員倫理を考える 内 容: 国家公務員倫理法及び倫理規程、青森県職員倫理条例及び倫理規程の概要等について ※ゲストスピーカーを予定。 教科書・指定図書とレジメ
第12回 11/25	テーマ(何を学ぶか): 21世紀に花開く CSR、SDGsとESG 内 容: マーケティングのあり方、非財務情報(環境・社会)の重要性と CSR の多様な見方、CSR の本質、SDGsとESG 等 教科書・指定図書とレジメ
第13回 12/9	テーマ(何を学ぶか): 企業における CSR 組織の策定と展開 内 容: 経営トップのリーダーシップとコミットメント、CSR の本質の理解、CSR 組織の策定、IT の有効活用、ステークホルダーとのコミュニケーション 等 教科書・指定図書とレジメ
第14回 12/16	テーマ(何を学ぶか): 企業の社会的責任(CSR)の事例 内 容: 中小企業事例(マンナンライフ)、大企業事例(パナソニック、トヨタ、ユニクロ等)など 教科書・指定図書とレジメ
第15回 12/23	テーマ(何を学ぶか): 経営倫理のまとめ 内 容: 教科書・指定図書とレジメ
試 験 12/2	